

そよかぜだより

第75号
発行 2008.8.17
毎月1回発行
NPO法人
障害者団体連絡会
そよかぜ

http://www.mmjp.or.jp/soyokaze/
連絡先
ひばり園 578-0855
FAX 578-0466
くれよん 578-2575
つくしの家 578-0855
あおぞら 570-6110
(お問い合わせ)
資源回収時のご連絡は
「ひばり園」へ

補助対象に採択の内示通知

新施設建設へ大きく前進

このたび、7月29日付けでそよかぜが平成20年度障害者(児)施設整備費補助対象に採択された旨の内示通知を東京都福祉保険局長名でいただきました。

これまで、老朽化し手狭になった現在の作業所に代わる新施設建設、社会福祉法人化

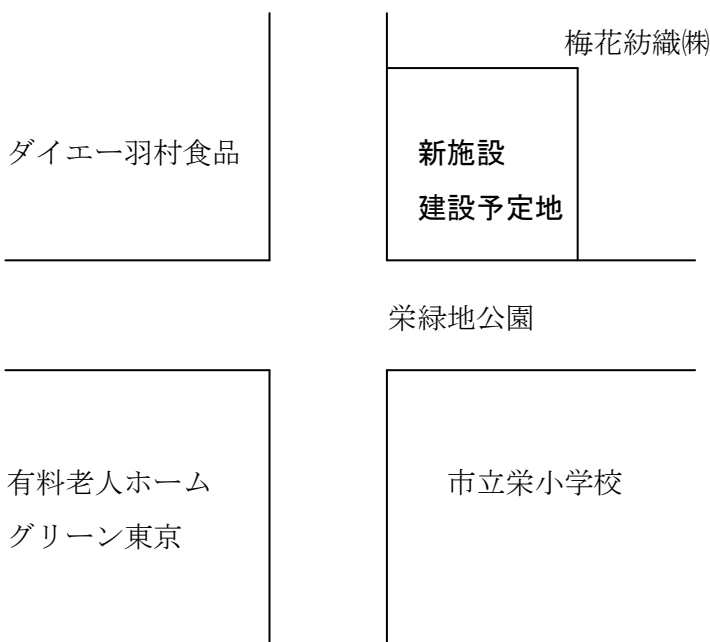
障害者自立支援法に基づく就労支援事業の実施などを一体的に実現することを目指して、羽村市行政の全面的なご支援をいただきながら、国や東京都と協議を進めてまいりましたが、今回の「内示」により、

夢の実現に向けて大きな一歩を踏み出すことになりました。

新施設建設予定地

羽村市栄町3-3-1

991㎡ 鉄筋コンクリート2階建て



今後、施設建設や社会福祉法人化認可などのためのより

具体的な事務が始まりますが、そよかぜ理事、職員一丸となつて取り組んでまいります。皆様方には、相変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

就労支援センター

九月に開所します

このたびそよかぜでは、障害者の就労とそれを支える生活支援を一体的に行う「障害者就労支援センター事業」を羽村市から受託することになりました。本事業は、東京都が障害者の就労支援を行う仕組みを「区市町村障害者就労支援事業」として独自に制度化したもので、今回の羽村市による事業実施は西多摩地域で最初のものとなり、各方面から期待されております。就労支援センターの場所は、神明台1〜27〜4で、この

場所は、前に福祉作業所ひばり園第2作業所として当時の羽村市社会福祉協議会が運営していた建物です。羽村市が新たに改装してそよかぜにお貸しいただけることになりました。業務に当たる3名の職員が準備に当たっています。

ご協力ありがとうございました。

7月の募金		49,646円	
平成20年4月~7月の合計		181,78円	
(順不同)			
株土佐電業	様	高橋 典子	様
藤野 和子	様	エイ・アイ	様
鰻沢 道子	様	加部 妙子	様
とまと美容室	様	大野 元雄	様
帯刀 進	様	森田 勝	様
宇津木 牧夫	様	濱野 岬	様
天満 喜代子	様	山下 暉枝	様
石堂 孝一	様	井上 誠一	様
村野 理子	様	古澤 奈保美	様
国本 昭治	様	土屋 三枝子	様
渡辺 時三	様	竹内 照夫	様
川崎 利男	様	榎本 正代	様
長谷川 キヌ子	様	松岡 竹子	様
関谷 孝子	様	角野 克子	様
斉藤 忠	様	袴田 実	様
下田 コウ	様	草間 哲夫	様
阿部 郁子	様	永岡 智恵子	様
大野 素子	様	田中 稔	様
山影 幸子	様	平岡 知子	様
野崎 敬雄	様	アバンバンディックス	様
		内田 洋子	様
		北野 浩美	様
		清水 賢	様
		清水 知子	様
		関村 理	様
		関村 英希	様
		橋本 亜紀子	様
		関谷 博	様
		山崎 六雄	様
		関谷 達夫	様
		関谷 和子	様
		清水 キヨ子	様
		尾又 恭子	様
		角野 満壽子	様
		吉野 満里子	様
		桜沢 喜作	様
		小沢 達子	様
		本間 正彦	様
		ヘアサロンカワノ	様
		匿名様 (4,304円)	様

NPO法人 そよかぜの

《資源回収》に

ご協力をお願いします
新聞、雑誌、ダンボール

(ボロは扱っていません)

7月は25,740tでした。金額は599,942円となりました。この収益は、NPO法人そよかぜの運営資金になります。みなさまのご協力ありがとうございました。

9月は第3日曜日21日です。

大雨の場合は、次週の日曜日に順延します。

ご連絡は、ひばり園へ
羽村市五ノ神2-6-7
042-578-0855
くれよん7月の売上げ
895,280円でした。
(別に、夏まつり売上分は
128,100円でした。)

羽村市内の小学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さっています。ありがとうございます。

ひばり園が経験してきた大きな二つの出来事

22年前に自主運営からひばり園へ

10年前のそよかぜ設立と資金問題

八月は昔のことを思い出すことが多い月ですが、今年ひばり園の昔のことに触れてみます。

今年の四月から、ひばり園とおおぞらでは新しい職員が多くなりました。前職員の退職とか、九月から開設する羽村市障害者就労支援センターのための新職員採用等があったためです。新職員も就任後三、四ヶ月もすれば、いま現在やっている仕事についてはほぼマスターします。日々の仕事をこなすだけならそれでよいのですが、少し複雑な問題になると、前の経過や昔のことを知らない判断できないこともあります。

また、近所の人や回収の協力者、関連機関の人など、ひばり園の「いままで」のことをよく知っている人はたくさんいます。そのような人から昔のことを言われたとき、あまりにも見当違いの返事をし

たり、「何も知りません」というのでは職員として頼りなく思われるでしょう。

これらのことから「ひばり園やそよかぜの歴史を一通り知っておきたい」という声が職員からありました。そこで一番の古株の私が講師となつて昔のひばり園を知るための学習会をつい最近ひばり園で行いました。その際の資料としてまとめたものの中から、とくに大きな問題をここに紹介します。それというのも、このそよかぜだよりの1面でお知らせした通り、新施設建設の国庫補助の内示がありましたが、新施設が完成すると、二十七、八年続いた現ひばり園の歴史に幕が下りることになるかもしれません。長い間お世話になった施設に感謝しながらまとめておきたいと思いました。

越えてきた二つの峠

いま、ひばり園と呼ばれて

いる建物は、26年前の昭和57年に「まいまい作業所」という名前で開所しました。当時の羽村町手をつなぐ親の会の「自主運営」ということでした。順調に運営できたのは最初のうちだけで、すぐに厳しい資金難の壁に当たりました。今後の運営をどうするかについて、親の会では意見が真つ二つに別れました。

一方は「親の会の自主運営をやめて、作業所の運営を公の機関に委ねよう。それによって公の資金援助を得よう」という意見です。もう一方は「どんなに苦しくても自主運営で行こう。そうでなければ重度障害者が排除される」という意見です。二つの意見は真つ向から対立して、その後約2年間、会員だけでなく職員や保護者を巻き込んでケンケンガクガクの議論がつづきました。最終的には、作業所は社会福祉協議会の中の「事業」となつて、名前は「ひばり園」と変わり、新しい運営委員会も発足しました。「まいまい作業所」の名前による自主運営の作業所は4年間で幕を閉じました。

ひばり園が始まってしばらくの間は「本当に重度障害者が受け入れてもらえるのか、作業が出来ない人は対象外とされるのではないか」という心配と不安がまだ根強く残っていました。しかし、一年、二年と経つうちにそのような心配は必要ないことが分かってきました。それどころか公的な作業所だからこそ、かえって重い障害者が安心して通えるのだということが事実で分かってくると、激しかった対立感情もようやく収まり、ひばり園も落ち着いてきました。

その後、ひばり園は第二作業所、第三作業所と事業が拡大しました。もう一つの峠は、平成十一年に羽村市福祉センターが栄町に開設されたときのことです。開設に先立ち、羽村市手をつなぐ親の会では、障害者団体連絡会そよかぜを立ち上げ、その「そよかぜ」がひばり園の運営と、それまで親の会が運営していたつくしの家とくれよんの運営も引き継ぐことになりました。同時に、それまで親の会が資源回収やバザーの収益を積み立ててき

た二千五百万円の資金もそよかぜに移しました。

ところが、事業はともかく資金を移したことに反発しては反対意見が親の会の中にあつて返還を強く求めました。何回も話し合いの場を設けましたが、そのたびに対立は深まるばかりです。ついには相手の非を訴えるチラシが外部にまで配布され、この対立は衆目が注視することになりました。深刻に受け止めたそよかぜ理事会では、これを未解決のままではそよかぜの運営に専念できない上に、ひいては地域の障害福祉に支障を及ぼすと判断して、資金を親の会に返すことを決議しました。この問題は、金銭が絡んだものだけに前の自主運営を止めるかどうかの対立より一段と深刻なものでした。訴訟沙汰になる一歩手前でようやく解決しました。

この二つの大きな峠を越えてきて、いまのひばり園があり、そよかぜがあります。前問題のとき、もし作業所が親の自主運営を続けていたらひばり園はなかったでしょう。また、後の問題で、もし親の

会との深い対立とミソを残したままでいたら、そよかぜの運営基盤は弱いものとなって、新施設建設や社会福祉法人化はあり得なかったでしょう。

地域の福祉活動や運動のなかでは、当事者間での意見の対立はよくあることです。問題の渦中にあるときはつい目の先に目撃されるものがちですが、深刻で大きな問題のときほど、一歩後ろへ下がりが、離れたところから遠くを見る心構えが必要だと思えます。二つの峠を越えた経験が、これからのそよかぜのために大切な栄養になっています。最後に、「そよかぜ」という名称について、22年前に発行された機関紙そよかぜの創刊号に「障害があつてもイジジすることなく、また逆に権利意識を振り回して肩を怒らせることもなく、普通の気持ちですんなりと、そよかぜのように街を歩こう。という意味でこの題名をつけました」とあります。この気持ちは22年前も今も、またこれからも変わることもなくもち続けて行きたいと思えます。